あとがき

1974年5月予備調査に入ってから1年あまり、多摩川沿域の植物調査の結果を分析し、若干の議論を加味して報告する段階に達した。やや植物学的範囲をはみだしたきらいもあるが、要はこの調査で得た樹木・竹類の実態が当市の環境改善、自然の保護，保全の対策を立案する上で役立つことを念願してのことでそれ以外の何ものでもない。この調査は、今後も継続されて市の植物の全容が明らかになって行く筈であるが、その一段階として多摩川沿域の樹木・竹類の実態をとらえることができたのは一つの収穫であり、調査班員のよろこびでもある。

総数28,000本、305種に支えられた調査沿域の「みどり」は貴重な存在とくて認識しなければならない。野生する植物の生育する植物帯にも、内容的には様々な樹林相が見られ、その中心をなす段丘崖は実質以上に「みどり」の豊かさをあらわし、その一方でその生態的環境の脆弱性を内包していることが理解できた。これは貴重な野生樹木の生育地としての条件整備が必要であることを意味し、自然のままに放置しておけるほど安定性は良くない。また、植栽樹の植物量が多摩川沿域の樹木総量の23.3%を支えており、緑地公園、遊園地などで14%ということは、これらを「みどりの担い手」として無視することはできないし、これらの拡充が「みどり」の環境の維持，向上に果す場はいよいよ増大すると考えられる。狭い福生市にとって多摩川岸は「みどり」を拡充する場として活用するために格好の地域と見られる。

調査委員（文化財総合調査植物班）

宮岡一雄	市文化財専門委員・明治大学教授
大串曄子	福生市立第一中学校教諭
栗原　仁	福生市立第五小学校教諭
茂山吉秀	福生市立第一小学校教諭
滝上泰男	武蔵大和市立第三小学校教諭
福地　享	福生市立第二小学校教諭
増岡一男	福生市立第四小学校教諭

福生市文化財調査報告（第五集）

福生市の植物調査中間報告
—多摩川沿域の樹木、竹類について—

発行日　1975年10月
編集発行　福生市教育委員会
印　刷　昭和印刷株式会社